

農業女性の更年期の実態調査 — その1 —

はじめに

平成9年度の更年期研究では、一般女性の調査に加えて、農業女性の更年期がどのような状況にあるかを見る試みがなされた。「農業女性の更年期実態調査—その1—」では、一般女性と対比させながら農業女性の特徴的な傾向をさぐった。最初に、アンケート調査を通しての報告を行い、次いで農業女性へのインタビューによるケース・スタディを報告する。なお、「その1」は次に続く「農業女性の更年期実態調査—その2—」での、農業女性に対する別建てのアンケートに基づいた専門的な調査分析のための前提として構成されたものである。

1. 農業女性に見られる特徴的傾向

1) 更年期開始年齢・終了年齢

農業女性の更年期開始年齢の平均値は48.62歳、終了年齢の平均値は53.34歳で、一般の女性との差はほとんどないと言ってよい。強いて言えば開始年齢で0.3年、終了年齢で0.2年農業女性の方が低い。

2) 夫と妻との関係

農業の場合は伝統的な様相を示している。例えば夫が家事などの手伝いをしたり、更年期の妻に対して気遣いや思いやりを示す割合は低い。話し相手になったり、外出に誘ったりすることも少ない。但し、60代の夫は、家事をしたり、外出に誘ったりの行動には表さないが、妻に対する思いやりがあるように見える。これは、向老期にさしかかった妻の労働量の大きさを認識してのことであろう。また、「夫は妻の更年期を正しく理解していたか」では、「農業」40歳代と60歳代の夫が「一般」の夫よりも高位にあり、その他は「農業」の夫はおしなべて低い。

3) 配偶者の有無

40代、50代、60代の各年代を通じて有配偶の人が多く、シングルは少ない。夫に先立たれた場合はともかく、未婚で農業を経営していくことがきわめて困難であろうことは想像に難くない。「一般」より死別は多いが、離別はいない。調査対象者の年齢が「農業」60代ににたよっているせいもあるが、農村ではまだ多くのしがらみがあり簡単に離婚に結びつかない傾向を示しているのではないか。

4) 子供の数

「子供がいない」人の割合は農業では4.0%、農業以外では10.9%、「子供一人」は同じく8.3%：17.0%、「3人以上」は逆転して40.1%：21.2%と、差が大きく開いている。子供2人の標準的パターンは農業の方が一般より少なく、「3人以上」は2倍近い割合で「農業」の方が多い。年齢が高くなるほど子供の差は拡大する。

「農業」だけを年代別で見ると、60代では「子供2人」と「3人以上」は伯仲し、50代では「3人以上」が「2人」より6%減少、40代では「2人」は「3人以上」の2.7倍になり、年齢層が下がるほど「一般」のパターンに近づく傾向が見られる。

5) 同居家族の形態

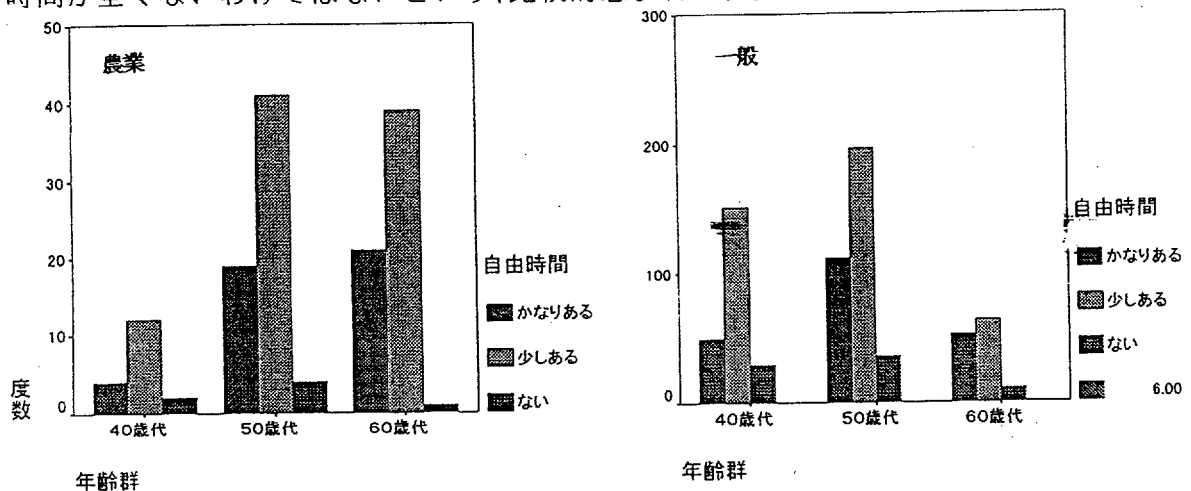
「農業」では60代に「一人暮らし」が2.9%いるものの、50代、40代では0で、全体では1.2%に落ちる。「一般」では60代の「一人暮らし」は14.1%だから、この差は大きい。逆に「夫婦のみ」の割合は「農業」の各年齢層とも「一般」の半分になる。

「一般」では「夫婦のみ」がもっとも多く25.8%、二位は「夫婦と娘のみ」14.3%、三位「夫婦と息子のみ」12.1%と続くが「農業」では、最多の形態は「夫婦と息子夫婦と孫」で19.2%、次いで「夫婦のみ」が14.6%、三位が「夫婦と息子のみ」の7.3%である。農家もサラリーマン化したと言われるものの、この調査に関する限り、家族形態の違いはくっきりしている。この違いは更年期の症状に何らかの影響をもたらすものだろうか。

6) 自由時間

自由時間がかかなりあると答えている人の割合は全体で30%で、「農業」も「一般」も大差はない。自由時間が少しあると答えている人の割合は、40代ではほとんど差がないが、50代60代では「農業」の方が多くなる。自由時間がない層は「農業」40代では11%だが、年齢が上がる程少なくなり、60代では僅か1.6%にすぎない。

農業では同居家族が多いための時間的負担は40代が背負い、50代、60代では、自分がしなければならない農業上の役割を持っているだけに自由時間は制限されるものの、自由時間が全くないわけではないという、比較的恵まれた状況にあることが分かる。



7) 学歴

今回の調査のデータで見ると、もっとも大きな差が出ているのは学歴である。「一般」の調査対象は、比較的意識の高い層で、学歴も高いと考えられるから、この差が意識や生活様式にどのように反映されるかを見る必要があるであろう。

8) 更年期はいつだったか

いま更年期真ただ中の人には、「農業」40代で27.6%、50代で23.9%、これは「一般」の人より40代、50代の年代でそれぞれ7%程度低い。特徴がもっとも大きいのは更年期などなかったと答えた人が、50代で25.6%（「一般」で18.7%）、60代で39.6%（「一般」28.9%）で農業従事者の方が更年期の症状を感じていない様子が見える。日常の労働がきびしいためにおこる身体症状に更年期の症状が紛れている可能性もある。

9) 更年期症状の治療のためにどこかを訪ねたか

最も多いのは、どこへも行かなかったで、「農業」50代で59.8%、60代で66.2%である。医療機関を訪ねた人は50代で38.0%、60代で31.1%だが、50代の比較では

医療機関を訪ねた人は「一般」より5ポイント高く60代では11ポイント低い。この項目では「農業」の60代の意識や行動様式に、50代とはかなりの差が見られるようだ。

10) 治療に行かない理由

行く必要がなかったと答えた人が最多で、50代の79.6%、60代で72.9%。これは「一般」の答えより50代で8.7ポイント、60代で7.1ポイント高い。この点は更年期などなかったと答えた人が「農業」で多かったのと照応する。行く暇がなかったでは、50代は「一般」より3ポイント高いが、60代では逆に9.2ポイント低いのが特徴である。

11) 医者を知り訪ねたか

医療を受けた人のうち、最多は、60代では1軒が64.7%、2軒-5軒くらいが丁度その半分の32.4%になる。50代では逆転して、2軒-5軒くらいが54.8%、1軒は45.2%に下がる。40代では対象者が3人しかいないので、一概には言えないが、2:1で1軒の方が多い。この項目では「一般」のすべての年代でも1軒が最多であるから、「農業」50代の、複数の医者にかかる割合の高さはどのように解釈すべきであろうか。

12) 知った医者は更年期に深い理解があると思われたか

医者の理解度についての評価は、おおむね適切が40代で100%、60代では93.8%で「一般」より高い。しかし、50代では、おおむね適切は61.0%にとどまり、診断が正しくなかったと不親切で理解なしを合わせると30%近く「一般50代」と較べても、不満足度がきわめて高い。そのため、前項にみられるように、医者を知りを変え、結果的に複数の医者にかかる割合が高くなったのかも知れない。

13) 医療機関でホルモン療法を受けたか

「農業」でホルモン療法を受けた人の割合は40代で0%、50代で14.3%と「一般」の半分以下であるが、60代のみ30.2%で「一般」の26.2%よりやや高い。ホルモン療法を受けたいと思う人は60代で4.7%いる。ホルモン療法について知らなかった人は「農業」の方が総じて高く、40代で33.3%（「一般」8.0%）、50代35.7%（「一般」10.2%）だが、60代では16.3%（「一般」13.1%）と差は最も縮まる。とは言え、知らなかった人の合計は「一般」10.9%に対して「農業」は26.1%で2倍以上の差がある。情報にアクセスしやすくする方策が望まれる。

14) ホルモン療法の結果について

受けてよかった人の割合は50代で100%、60代で83.3%、合計では88.9%で「一般」の73.8%から見ると15ポイントも高い満足度になっている。

15) 更年期に感じた身体的症状

「一般女性」に最も多く現れる更年期の身体的症状はのぼせ・ほてり・発汗などのいわゆるホットフラッシュであるが、「農業」での最多は肩こりで38.6%、次いで腰痛32.6%、のぼせ・ほてり・発汗31.3%の順である。腰痛、関節痛、冷え、めまいがそれに続く。特に強かった症状に絞ると、のぼせ・ほてり・発汗が一位で30.4%、肩こりは二位に下がって15.2%、月経量過多と頭痛が共に13.0%で三位になる。身体症状は特になかった人は14.2%で「一般」よりやや多い。「一般」より多い症状は腰痛、関節痛のみで、これは農作業の影響であると考えられるが、他の症状は「一般」よりかなり低く、たとえば動悸9.9%、22%のように現れ方が半分以下のものもある（次頁表参照）。

15: 更年期に感じた身体的症状 (%)

	40代		50代		60代		平均値	
	農業	一般	農業	一般	農業	一般	農業	一般
のぼせ・ほてり・発汗	40.0	51.7	35.0	63.4	25.7	54.4	31.3	58.7
むくみ	13.3	14.5	8.5	13.8	5.0	7.8	7.3	12.2
冷え	33.3	22.7	17.9	23.9	14.9	20.4	17.6	22.6
めまい	13.3	23.8	16.2	23.1	19.8	22.6	17.6	23.1
動悸	6.7	21.5	12.8	24.7	6.9	19.6	9.9	22.6
耳鳴り	20.0	16.3	16.2	16.6	8.9	19.3	13.3	17.3
息切れ	6.7	9.9	5.1	12.6	3.0	14.1	4.3	12.5
肩こり	40.0	40.7	38.5	41.1	38.6	31.5	38.6	38.2
しびれ	13.3	13.4	20.5	18.4	7.9	17.4	14.5	17.2
皮膚のかゆみ	26.7	20.9	11.1	23.1	6.9	14.8	10.3	20.3
トイレが近くなった	6.7	22.7	20.5	19.2	8.9	12.2	14.6	17.8
尿漏れ	13.3	12.2	7.7	14.6	2.0	8.9	5.6	12.5
月経の量が多い	13.3	27.9	15.4	19.8	11.9	24.1	13.7	22.5
月経期間の延長	33.3	20.9	12.8	14.6	7.9	17.0	12.0	16.5
腰痛	33.3	23.8	35.9	23.7	28.7	24.4	32.6	23.9
頭痛	13.3	25.6	23.9	24.5	23.8	26.3	23.2	25.2
腹痛	0	9.3	3.4	5.7	5.0	9.3	3.9	7.4
関節痛	20.0	15.7	17.1	15.4	14.9	15.6	16.3	15.5
便秘	6.7	10.5	8.5	11.3	14.9	17.0	11.2	12.8
円形脱毛症	0	4.7	0.9	5.1	1.0	6.3	0.9	5.3
子宮筋腫関連の悩み	0	11.0	5.1	10.1	3.0	10.7	3.9	10.5
性交痛	6.7	11.0	12.8	18.8	6.9	12.6	9.9	15.6
その他	6.7	11.6	3.4	6.7	1.0	9.3	2.6	8.3
性欲減退	6.7	15.1	24.8	22.9	15.8	18.9	19.7	20.3
身体症状は特になかった	0	7.0	12.0	11.5	18.8	18.5	14.2	12.7
平均値	6.4	18.4	50.2	52.8	43.3	28.8	100.0	100.0

16) 更年期に感じた精神的症状

「農業」全体では、精神症状は何もなかったが最多で33%であるが、これを年代別で見ると、60代の38.6%が引き上げているがわかる。60代の二位はイライラで23.8%、続いて眠りが浅い18.8%、不眠16.8%で、他の症状はずっと低い割合で分散している。イライラ、眠りが浅い、不眠は「60代一般」でも多い訴えだが、その他にも、不安感、うつ状態、無力感などが高い割合で続くの

に対して、「60代農業」ではそれらの訴えは半分から1/3位しか現れていないのが特徴的である。

「50代農業」の最多はイライラ30.8%、何もなかった29.1%、眠りが浅い21.4%と続き、その後不安感14.5%がくる。「50代一般」が、イライラ34.0%、眠りが浅い27.7%、の次に無力感23.3%、不安感、うつ状態21.1%と続くのに比して、「50代農業」の精神的症状の訴えはやはり低い。

「40代農業」ではイライラ40.0%、何もなかった26.7%、無力感26.7%と続く。次に不安感20.0%が浮上し、「一般」の傾向にやや近づくが、「一般」に多いうつ状態、自信喪失などは極めて低い数値を示している。

「農業」に精神的症状の訴えが少ないのは、自然を相手に生活し、家族内ストレスはともかく、広範囲な人的ストレスにさらされなくてすむ農業生活が、肉体的な疲労と引き換えに

16: 更年期に感じた精神症状 (%)

	40代		50代		60代		合計	
	農業	一般	農業	一般	農業	一般	農業	一般
イライラ	40.0	43.0	30.8	34.0	23.8	30.4	28.3	34.6
鬱状態	6.7	25.0	5.1	21.1	3.0	17.8	4.3	20.8
不眠	13.3	14.0	14.5	19.4	16.8	23.0	15.5	19.4
眠りが浅い	6.7	29.7	21.4	27.8	18.8	27.0	19.3	27.9
無力感	26.7	19.2	11.1	23.3	5.0	14.4	9.4	20.0
不安感	20.0	24.4	14.5	21.1	7.9	21.9	12.0	21.9
対人関係が苦痛	13.3	14.5	6.0	14.4	6.0	12.6	6.0	13.9
自信喪失	6.7	12.8	9.4	18.2	4.0	10.4	6.9	15.0
その他	0	6.4	2.6	6.7	1.0	10.0	1.7	7.6
精神症状は何もなかった	26.7	18.6	29.1	32.0	38.6	42.2	33.0	32.5
合計	6.4	18.4	50.2	52.8	43.3	28.8	100.0	100.0

与えてくれる恩恵であるとしてよいのではなからうか。

17) 何科にかかったか

「40代農業」の最多は産婦人科66.7%、次いで内科・皮膚科・神経科がそれぞれ33.3%であるのに対し、50代、60代では内科・産婦人科・外科(整形外科)の順である。年齢が高くなると、産婦人科には行きにくくなる(特に田舎では人目を意識する傾向が今だにあるので)のかも知れない。ちなみに「一般」ではどの年代とも産婦人科・内科の順である。

(18) 医療機関の他には誰が最も親身に相談に乗ってくれたか

この項目は特に年代によって差が大きい。「40代」は分散型で一位が4つに分かれ、夫、自分の母、女の友人、誰にも相談しなかったでそれぞれ20.0%、次が娘、姉妹、職場の同僚が10.0%ずつ。50代では、夫41.0%、女の友人33.7%、誰にも相談しなかった19.3%の順。60代では夫47.0%、誰にも相談しなかった30.3%、娘21.2%、女の友人16.7%となる。

「一般」での最多は40代、50代では女の友人がぬきんでており、60代では誰にも相談しなかった34.7%を別とすれば夫24.5%の次に、女の友人24.0%が僅差で迫るが、「農業」では女の友人の位置は「一般」ほど高くなく、家族、親族に傾斜し、特に夫への依存度が高い。「農業」40代が50代、60代の傾向と異なるのは先述した通りである。

18: 医療機関の他で親身に相談に乗ってくれた人 (%)

	40代		50代		60代		合計	
	農業	一般	農業	一般	農業	一般	農業	一般
夫	20.0	26.7	41.0	19.8	47.0	24.5	42.1	22.3
娘	10.0	6.0	20.5	8.8	21.2	13.8	20.1	9.8
息子	0	0	1.2	1.6	6.1	2.6	3.1	1.6
夫の母	0	0.9	1.2	0.3	1.5	1.5	1.3	0.7
自分の母	20.0	11.2	3.6	5.5	6.1	5.1	5.7	6.4
姉妹	10.0	7.8	10.8	9.3	7.6	7.1	9.4	8.4
女の友人	20.0	56.9	33.7	42.0	16.7	24.0	25.8	39.3
男の友人	0	3.4	0	1.1	1.5	0	0.6	1.2
職場の同僚	10.0	12.9	3.6	8.5	3.0	5.1	3.8	8.3
外部の相談機関	0	0.9	0	1.9	0	1.5	0	1.6
その他	0	1.7	2.4	0.8	0	1.0	1.3	1.0
誰にも相談しなかった	20.0	10.3	19.3	28.0	30.3	34.7	23.9	26.9
合計	6.3	17.2	52.2	53.8	41.5	29.0	100.0	100.0

19) 閉経後の性生活

「農業」では総じて閉経後の性生活にはマイナスイメージが強い。性生活が減ったと性生活への意欲がないが一位で40.8%だが、この数値には50代の傾向が最も大きく影響している。「一般」では、妊娠の心配がなく解放感があるが最多で41.7%だが、「農業」ではこの答えは三位にとどまっている。四位に入るものを見ると、セックスは嫌だが夫に悪いので仕方ないと消極的だが、「一般」では以前と変わらないが20.9%あり、セックスが嫌だが仕方ないは16.8%で「農業」とは12ポイント差がある。

20) 更年期の頃の問題

年代によって問題の所在が大きく分かれるが、40代にとって最大の問題は夫の親の介護38.5%、二位は子供の受験と仕事の多忙によるストレスがそれぞれ30.8%、職場の人間関係、子供の恋愛・結婚、嫁姑の不和が23.1%で次に続く。これは、「一般」の40代にとっての問題の第一が子供の受験40.7%、次いで仕事の多忙によるストレス33.3%とあるも

の、ふたたび、子供の恋愛・結婚23.3%と、子供の問題に大きくウエイトがかかっているのとやや傾向がことなる。

50代での一位は子供の恋愛・結婚で43.6%、二位に仕事の多忙によるストレス34.5%、三位夫の親の介護25.5%である。一方、60代の一位に子供の恋愛・結婚46.7%が来るが、二位は夫の親の介護40.0%、三位は夫は仕事一筋23.3%で、家族の問題に終始している。「一般」

20：更年期の頃の問題 (%)

	40代		50代		60代		平均値	
	農業	一般	農業	一般	農業	一般	農業	一般
子供の受験	30.8	40.7	15.5	25.0	21.1	26.3	18.8	27.6
子供の恋愛	23.1	13.3	43.6	25.0	46.7	28.4	43.7	24.4
子供の独立	7.7	8.7	17.3	18.1	12.2	18.2	14.6	16.8
子供が自立しない	0	6.7	13.6	12.4	7.8	7.8	10.3	10.1
嫁・姑の不和	23.1	8.0	12.7	7.1	12.2	7.5	13.1	7.3
夫は仕事一筋	15.4	14.0	19.1	17.5	23.3	24.5	20.7	19.2
夫の転勤	0	2.0	2.7	5.0	0	7.5	1.4	5.3
夫の単身赴任	7.7	7.3	3.6	6.7	0	5.7	2.3	6.5
夫の定年・リストラ	0	4.7	3.6	6.9	2.2	3.9	2.8	5.6
夫の病気	7.7	8.0	10.9	8.8	12.2	9.9	11.3	9.0
夫との離別・死別	0	2.7	2.7	1.9	5.6	7.5	3.8	3.8
夫の親の介護	38.5	17.3	25.5	21.1	40.0	25.4	32.4	21.9
自分の親の介護	7.7	22.0	7.3	18.8	13.3	17.9	9.9	19.0
自分の定年・リストラ	0	3.3	0.9	2.8	0	1.8	0.5	2.6
仕事の多忙さによるストレス	30.8	33.3	34.5	32.0	20.0	21.2	28.2	28.8
職場の人間関係	23.1	21.3	4.5	15.2	1.1	9.6	4.2	14.3
自分の異性問題	0	2.0	0	1.4	1.1	1.2	0.5	1.4
夫の異性問題	15.4	2.7	1.8	2.3	4.4	3.3	3.8	2.7
親族関係のトラブル	7.7	8.0	8.2	9.7	3.3	5.7	6.1	8.2
老後の生活設計がしにくい	0	14.0	6.4	9.6	12.2	9.0	8.5	10.0
住宅の購入や増改築	7.7	14.0	15.5	15.0	10.0	16.4	12.7	15.3
その他	0	8.0	4.5	7.6	1.1	4.5	2.8	6.7
平均値	6.1	14.3	51.6	53.8	42.3	31.9	100.0	100.0

では問題が分散する傾向があるのに比べて、「農業」では家族関係への依存度が大きいからこそ家族の縦の関係から発生する問題に集中しているように見える。なお、自分の親の介護の割合は「農業」では「一般」に較べて40代で15ポイント、50代11ポイント、60代で4.6ポイント低く、差が大きく開いた。

21)更年期を乗り切る上で一番よかったと思われること

「農業」の一位も「一般」の一位も共通してやりがいのある仕事をあげている。農業の二位は打ち込める趣味、三位は僅差でおしゃべりなどストレスの発散を助け合う友人となっている。「一般」では、趣味とストレス発散できる友人の順位が入れかわっているが大差はない。むしろ年代別の差の方が大きい。例えば「40代農業」では打ち込める趣味は0%で、ストレス発散できる友人が25%と高い。この傾向は「40代一般」でも同様で打ち込める趣味よりもストレス発散できる友人が25ポイント高い。

「農業」50代と60代では打ち込める趣味をあげた人は24.3%と25.0%でほとんど差はないが、ストレス発散できる友人の割合となると、50代では趣味と同じ24.3%で変わらず、60代では10ポイント下がって14.3%となる。この傾向は「一般」でも同様で、60代ではストレスを発散できる友人が少ないことがうかがえる。

なお、更年期を乗り切る上で一番よかったことに加えて、単によかったことまで範囲を広げると上記3項目のほかに浮上してくるのは、旅行・外出・買い物などストレスを発散する経済力があるで、40代で43.8%、50代、60代でも32.0%と高い割合を占める。

第五位は「女でなくなった」などと自分も周囲も思わないことでこれは年代としては50代のパーセンテージが高い。年代差が大きいのは、あれこれ欲張らず休暇・休息をとることで、40代では31.3%だが、50代では15.2%、50代で19.6%である。意識の上でも実際の生活上でも50代が農業を最も大きく支えているらしいことがうかがえる。

夫との関係では、夫が共感、同情を示してくれることへの期待は「農業」40代で最も低く、6.3%であるのに対し、「一般」40代では15.6%で2倍以上の差が生じている。これを裏付けるのは、夫があまり家にはいないので自分の時間が持てることへの「一般」40代の答えが6.3%と低いのに対して「農業」40代の反応が12.5%になっていることである。ちなみにこの項目は「農業」50代で7.1%、60代では9.3%である。

21：更年期を乗り切る上で一番よかったこと (%)

	40代		50代		60代		平均値	
	農業	一般	農業	一般	農業	一般	農業	一般
やりがいのある職業	43.8	66.9	43.8	64.8	38.1	61.8	41.3	64.3
特に必要	37.5	33.9	32.4	44.1	50.0	51.2	39.7	44.2
打ち込める趣味	37.5	38.1	37.5	41.8	44.3	35.3	40.4	39.2
特に必要	0	8.9	24.3	12.8	25.0	17.4	21.9	13.3
友人とおしゃべりでストレス発散	75.0	70.0	57.1	58.0	56.7	40.8	58.2	55.0
特に必要	25.0	33.9	24.3	15.6	14.3	11.6	20.5	17.6
旅行・買い物・外出などできる経済力	43.8	36.9	32.1	39.5	32.0	31.6	32.9	36.7
特に必要	25.0	3.6	10.8	7.1	3.6	3.5	9.6	5.7
欲張らず休暇・休息をとる	31.3	35.0	15.2	27.8	19.6	16.5	18.2	25.7
特に必要	12.5	5.4	2.7	6.2	0	3.5	2.7	5.4
酒・たばこなどの嗜好品	0	7.5	0.9	3.7	4.1	2.2	2.2	3.9
特に必要	0	0	0	0	0	0	0	0
夫が共感、同情をしてくれる	6.3	15.6	8.0	12.6	9.3	11.4	8.4	12.7
特に必要	0	1.8	2.7	0.5	0	1.2	1.4	0.8
夫が留守で自分の時間がとれる	12.5	6.3	7.1	10.9	9.3	9.2	8.4	9.6
特に必要	0	1.8	0	3.3	0	0	0	2.3
大学へ再入学・各種講座を受講	0	15.0	1.8	12.6	4.1	10.7	2.7	12.4
特に必要	0	7.1	0	3.3	3.6	2.3	1.4	3.7
子供が共感同情してくれる	6.3	9.4	11.6	9.5	12.4	6.3	11.6	8.5
特に必要	0	0	2.7	2.4	0	0	1.4	1.4
老親が健康で介護負担が重ならない	18.8	19.4	16.1	13.8	8.2	12.9	12.9	14.5
特に必要	0	3.6	2.7	1.4	0	1.2	1.4	1.7
医療機関がよい	6.3	6.3	2.7	6.6	6.2	10.3	1.4	7.6
特に必要	0	5.4	0	0.5	3.6	2.3	1.4	1.7
ホルモン療法が効果的	6.3	3.1	0	3.5	1.0	3.3	0.9	3.4
特に必要	0	1.8	0	1.9	0	0	0	1.2
自信を高める相談機関がある	0	7.5	0.9	5.8	0	3.3	0.4	5.3
特に必要	0	0	0	1.4	0	1.2	0	1.1
女でなくなったと思わない	18.8	13.8	25.9	23.9	22.7	27.6	24.0	23.2
特に必要	0	1.8	0	2.8	0	2.3	0	2.5
その他よかったこと	0	1.9	0	4.1	1.0	2.6	0.4	3.3
特に必要	0	1.8	0	2.8	0	1.2	0	2.3
特別努力はしなかった	43.8	16.9	35.7	29.0	36.1	29.4	36.4	27.0
特に必要	0	0	2.7	3.8	0	7.0	1.4	4.0
平均値	7.1	17.4	49.8	52.9	43.1	29.6	100.0	100.0
特に必要平均値	11.0	15.9	50.7	59.8	38.4	24.4	100.0	100.0

「一般」の期待の方が高く、「農業」との差が大きく出たのは、大学へ再入学したり、各種講座で学習するなど、新しい目標をつくることで、40代で0%、15.0%、50代で1.8%、12.6%、60代で4.1%、10.7%と、なっている。学習機会の創出については地理的、時間的に最初から諦めているのかも知れない。中高年女性の自信を高める相談機関・カウンセラーに対する期待も「農業」では0に等しい。そのような体験がないから期待しない、或いは、忙しくてそのようなところへ足を運ぶ暇はないなどの理由が推測できるが、行政施策面での奮起がのぞまれるところである。

22) 女性が更年期を健やかに過ごすために今後どんな対策が必要か

「特に必要」と思う項目を多い順に挙げると、一位は女性自身が更年期について正確な知識を持ち、冷静に対応することが40代77.8%、次いで60代50.0%、50代40.6%

の順。この順位は「一般」でも同様だが期待量は「農業」が、ずば抜けて大きい。このことは農業にたずさわる自分自身が正確な知識や対応に欠けていたとの反省に立っているものと考えてよいであろう。

22：女性が更年期を健やかに過ごすために必要な対策（％）

	40代		50代		60代		合計	
	農業	一般	農業	一般	農業	一般	農業	一般
プラスイメージでとらえる社会づくり 特に必要	27.3	54.2	29.5	60.6	27.0	50.6	28.3	56.4
正確な知識で冷静に対応 特に必要	95.5	79.7	78.6	80.3	78.7	81.4	80.3	80.4
女性に対する医療関係者の認識 特に必要	22.7	29.1	16.1	26.0	12.4	22.8	15.2	25.9
アクセスしやすい相談機関の充実 特に必要	9.1	41.4	14.3	35.6	22.5	28.9	17.0	35.3
豊富な情報提供が必要 特に必要	27.3	42.6	36.6	39.6	33.7	36.9	34.5	39.7
鑑別りではない総合機関の設置 特に必要	4.5	14.7	8.0	13.6	3.4	14.1	5.8	14.0
身体的精神的にケアのできる人材の育成 特に必要	40.9	43.0	34.8	40.2	33.7	29.7	35.0	38.2
男性の研修や教育の実施 特に必要	9.1	23.1	18.8	24.0	9.0	22.1	13.9	23.3
職場での理解促進 特に必要	4.5	17.9	8.9	17.3	10.1	12.9	9.0	16.3
更年期休暇の設置 特に必要	9.1	23.9	11.6	19.5	16.9	24.3	13.5	21.9
深夜勤務など労働条件の改善 特に必要	9.1	19.5	6.3	15.7	9.0	22.8	7.6	18.5
合計	9.9	25.0	50.2	48.9	39.9	26.1	100.0	100.0
特に必要合計	15.3	27.5	54.2	51.4	30.5	21.1	100.0	100.0

二位は更年期についてもっと豊富な情報提供が行われることで、40代では0だが、60代で高く22.2%、50代で15.6%となっている。この項目は「一般」40代では14.8%と出ており、同じ40代でも「農業」とは意識の差が大きい。

逆に、「一般」の60代では10.2%で、「農業」60代の半分にしかならず、情報の普及の度合いまたは普及への要望の度合いに、年代と職業（又は地域性）でのねじれがみられるようである。

この項目の三位は、更年期について適切な治療を行ったり、精神的ケアなどの対応ができる人材の育成で、「農業」40代は22.2%、50代は12.5%だが、60代では5.6%で「一般」60代の13.6%に較べると半分以下に落ちる。また、「一般」では、更年期をプラスイメージでとらえる社会的意識づくりへの要望も高く25.4%あるが、「農業」では8.5%しかない。

更年期の対策として必要と思うものの範囲を拡大して「特に」を外してたずねると、先述の項目の他に、プラスイメージの社会意識づくりが浮上するが、「農業」では28.3%にとどまり、「一般」56.4%の半分しかない。「農業」と「一般」で差が大きいもう一つの項目は、更年期について適切でアクセスしやすい相談機関の充実で、「一般」では35.3%と要望が高いのに対して「農業」では17.0%にとどまり、特に40代で「一般」41.4%、「農業」9.1%、50代で同じく35.6%：14.3%となっている。これは、相談機関ができたとしても、実際には地理的、時間的に利用しにくいという気持ちのあらわれともとれる。以上の点から、「農業」では、社会政策への期待よりも自助努力に重きを置く（もしくは置かざるを得ない）傾向がうかがえるようである。

23) 現在、又は更年期中についていた仕事の特徴

「農業」の最多は立ったり歩いたり身体を使うもの68.4%（この項目は「一般」でも一位）、

二位は仕事量多く長時間労働51.0%（「一般」では34.3%で三位）、三位は早朝・深夜勤など働き方が不規則16.3%の順。特に三位の項目は40代では0%であるのに対し、50代では23.9%、60代で11.4%と年代の差が大きく出た。ここでも50代に農業の負担が大きくかかっていることが読みとれる。

23：現在、または更年期中についていた仕事の特徴（%）

	40代		50代		60代		平均値	
	農業	一般	農業	一般	農業	一般	農業	一般
立位歩行など体を使う	62.5	47.4	73.9	36.2	63.6	41.3	68.4	39.6
仕事量多く長時間労働	0	30.8	52.2	35.7	59.1	33.7	51.0	34.3
早朝・深夜勤など不規則	0	14.1	23.9	5.8	11.4	9.8	16.3	8.4
出張、残業などが多い	12.5	16.7	4.3	21.4	0	13.0	3.1	18.5
難しい仕事で責任が重い	0	25.6	6.5	36.6	9.1	47.8	7.1	37.1
営業、折衝、接待など付き合いが多い	12.5	7.7	2.2	5.4	2.3	7.6	3.1	6.3
同僚からのあてこすり	0	0	0	2.7	0	0	0	1.5
人間関係で神経をつかう	25.0	33.3	13.0	31.7	6.8	34.8	11.2	32.7
本来の仕事以外のものが忙しかった	0	2.6	4.3	4.9	2.3	3.3	3.1	4.1
孤独な仕事で相談相手がいない	25.0	3.8	0	5.4	2.3	7.6	3.1	5.6
同僚男性より賃金が安い	0	6.4	2.2	5.8	0	13.0	1.0	7.6
責任のある仕事やポストが与えられなかった	12.5	9.0	0	3.6	0	3.3	1.0	4.6
その他	12.5	6.4	6.5	11.6	15.9	10.9	11.2	10.4
平均値	8.2	19.8	46.9	56.9	44.9	23.4	100.0	100.0

「農業」と「一般」との差が大きいののは、難しい仕事が多く責任が重かったで、「一般」では37.1%と高く出た（順位も二位）が「農業」では7.1%でぐっと低くなる。職場の人間関係で気を使うも差が大きく、「一般」では32.7%で四位だが、「農業」では11.2%にすぎない。

以上の点を総合すると、「農業」では肉体的には負担が重く大変だが、精神的なストレスという点では、家族内の関係はではそれなりの問題があるものの、責任の重大さへの認識、広範囲の人間関係などでは比較的気が楽な状況がうかがえる。

24) 仕事をしているときの精神状態について

「農業」の一位は、やりがいのある仕事で満足していたで42.0%（この項目は「一般」でも一位で47.4%）である。年代が高くなるほど満足度が高くなるのも共通している。二位は仕事楽しく生き生きしていた40.0%で、40代と50代の割合が高い。「農業」の三位は仕事を理解してくれる家族や友人がいた35.6%で、60代が最も高く、40代、50代の順。前にみたとおり「農業」60代の友人関係は限られている傾向があったから、ここでの答えでは理解してくれる家族、特に夫への依存が高いと推測できる（60代の夫が、

24：仕事をしているときの精神状態について（%）

	40代		50代		60代		合計	
	農業	一般	農業	一般	農業	一般	農業	一般
仕事楽しく生き生きしていた	50.0	21.3	35.3	33.7	44.2	45.7	40.0	33.8
やりがいのある仕事で満足していた	16.7	39.3	43.1	47.7	44.2	54.3	42.0	47.4
実績が評価されていて達成感があった	0	18.0	9.8	25.5	27.9	34.0	17.0	25.8
仕事を通して人間関係の財産ができた	50.0	31.5	25.5	44.0	37.2	45.7	32.0	41.8
仕事を理解してくれる家族や友人がいた	33.3	43.8	27.5	43.2	44.2	40.4	35.0	42.7
仕事をやりこなす能力や体力に不安があった	0	19.1	15.7	21.8	11.6	22.3	13.0	21.4
転職したいと悩んでいた	0	7.9	2.0	4.5	2.3	3.3	2.0	4.9
こんな仕事で一生を終えるのかと憂鬱だった	0	10.1	19.6	8.2	4.7	3.2	12.0	7.5
家族のことなどで悩みが多く両立が不安だった	16.7	9.0	11.8	10.3	14.0	5.3	13.0	8.9
職場でのストレスが多く忍耐することが多かった	16.7	27.0	3.9	22.6	4.7	18.1	5.0	22.5
その他	0	3.4	0	4.5	2.3	3.2	1.0	4.0
合計	6.0	20.9	51.0	57.0	43.0	22.1	100.0	100.0

妻に対する思いやりを持っていると認識されていたのは2項で見たとおりである)。ちなみに、仕事を理解してくれる家族や友人は、「一般」では二位である。

「農業」が「一般」より高い割合を示すのは家族のことなどで悩みが多く両立が不安だった13.0%で、40代と60代で「一般」とのギャップが大きい。こんな仕事で一生を終えるのかと憂うつだったのは50代で最も高く19.6%、これは「一般」50代の2倍以上である。農業に夢を託すことができず未来に希望を持ってない層に対する対策は今後特に重要であろう。一方、職場のストレス多く忍耐することが多かったは、「農業」は「一般」の1/4以下で、職場のストレスにさらされなくてすむ「農業」の強みがうかがえる。

II. ケース・スタディ

ケース・スタディは、アンケート調査対象者をフォローアップすることを通して行うのが望ましいが、被調査者の居住地が多岐に亘っていることもあり、ここでは北九州市在住の農業女性にインタビューしたものをまとめた。また、長野県から調査票とともに送られて来た農業女性の切々たる心情を吐露した手紙を要訳したものを併せて収録している。

1) - 6) は北九州市在住のケース、7) は長野県から文書で寄せられたものである。

ケース1. M・Uさん(69歳・次男の妻)

第二種兼業農家(5アールの野菜畑) 子供は男2人、女1人
同居家族は夫、長男夫婦と孫(女2人)

53歳頃閉経。生理が止まったときはせいせいした。しかし、また始まるのではないかという気持もあって待っていたが結局なかった。閉経前後の期間、胸が苦しくて夜中に目が覚めた。救急車を呼ぼうと思ったくらいであった。眠れないときもあり、病院に行ったが、どこも悪くはないと言われた。

嫁・姑の関係では、姑は後妻で、自分の夫だけが実子。次男なので分家させてもらい、親と一緒に暮らさなかった。本家の兄嫁は大変だったようだが、自分は実子の嫁のせいかな、よくしてもらったと思う。しかし、朝ちょっとでも雨戸を開けるのが遅いと姑が見張っていて起こしに来る。近所の手前があるからみっともないという。きびしい人だったが、肝臓を悪くして病気がちになり、今は仏さんのように穏やかになった。

夫は日頃おとなしいのだが、定年近くなって飲み始め、4-5年して身体の調子が悪くなった。飲むとからむから困ってしまう。

いろいろとあって心労が続き、昨年からは精神安定剤を処方してもらって飲んでる。

ケース2. T・Kさん(63歳・長男の妻)

米と野菜の専業農家 子供は男2人、女1人
同居家族は姑(91歳)、夫、長男夫婦

結婚して41年になる。姑が元気のいい人で働き者なので、自分もそれに合わせなければならず、いつ更年期かわからなかったくらい。閉経は54歳のとき。いつも頭が重かった。寝不足のせいもあると思う。夜11時過ぎに寝て朝5時には起きる。朝5時近くになると姑の咳ばらいと足音でおちおち寝ていられない。気になってじっとしてられない。姑が温泉に出かけて留守になると気持が楽になりせいせいする。近所に姑の実の娘が嫁いでおり、年金などのお金を受け取るのは実の娘を頼るので情けない。近くに住む小姑は何かとうるさいが、このころは居直ることにしている。夫は全く遊ばず、口数が少ない。母親っ子で、

母親に頭が上がらない人。ほっとできるのは、風呂に入ったときとトイレに入ったときぐらい。

子供の学校でPTAの役を引き受けてから友達が沢山できた。学校のことだと大目に見てもらえるので何かあるとすぐ出て廻ることにした。それで少し楽になった。農協の呼びかけで6人グループでジャム作りをし朝市に出すのを10年やって来た。1ヶ月に1度お金の精算に集まりお昼を一緒に喰べておしゃべりするのが何よりの楽しみ。姑の目をぬすんでママさんソフトボールチームのピッチャーをしていたことがあるが、そのときは、何もかも忘れて体の具合が悪いのも感じなかった。

ケース3. Y・Nさん(61歳・長男の妻)

第二種兼業農家(農地15アール、米と野菜作り)、子供は2人
同居家族は夫のみ

15年前、舅、姑は亡くなった。閉経は49歳の終わり頃。ほっとした。1年後に1回だけ生理があったが、その後はない。やるせない気持やイライラ、どきどきがあった。汗がぱっと出るのは今も続いている。農作業に出ると気持がせいせいする。農作業が性に合っているのだと思う。

若い頃は関西で暮らしていたが、33-34歳の頃、北九州に帰ってきた。姑が半身不随になったのでその介護のためだった。初め舅が姑の面倒を見ていたが、舅も具合が悪くなり、24時間の介護を2年間続けた。2人とも見送ったあとはマイペースで過ごせたので楽だった。北九州に来た4年目からお米作りを始めた。それまではやったことはなかった。農協婦人部の役員を引き受けたおかげで友達ができた。50歳頃からママさんソフトボールのチームに加わり楽しかった。夫の協力もあり今のところ問題もなく快適に暮らしている。

ケース4. T・Hさん(58歳・長男の妻)

第二種兼業農家(農地110アール、米と野菜作り)、子供女2人、男1人
同居家族は姑(84歳)と夫

47歳で閉経。生理は28日型で3日間続く。バタッと生理が上がってそれっきり。更年期はとてひどかったし長かった。夜、急に気分が悪くなり、めまいと動悸が激しく、救急車で運ばれた。メヌエル氏病との診断だったが、その後通院していたとき待合室にいた人に更年期ではないかと言われた。自分もそう思う。血圧が高く、今も服薬している。糖尿もある。

嫁いできて一番困ったのは、農作業に出ているとトイレがないので、昼食に家に戻るまでずっと我慢しなければならなかったこと。生理のときは特に辛かった。嫁姑の関係では、とにかく働き者の姑で元気がいいのでそれに合わせるのが大変。いつも顔色を見る。夫にとってはなさめ仲の母なのでそれだけに気を遣って来た。姑はカラオケが大好きで、温泉にもよく出かける。姑が出かけて留守になると、身体が軽くなり、調子がよくなる。嫁は外に出てはいけないと言われ、初めは勤めに出るのも許されなかった。ちょっと出かけてもさわぎになるので掟を破れなかった。農作業や家事を姑に替わってくれるように頼んだことは一度もない。

農協婦人部の活動で餅つきグループができ、それに加わるようになってから少しずつ姑との関係が変化してきた。餅つきグループで作った餅を市場に出し、もらった利益金のうち1万円位を姑に小遣いとしてあげるととても喜ぶので、それを見るとやっぱり嬉しい。今は午前中パートに出ているが、勤めに出ているときが一番楽しい。本音を言えるのは友達だけ。家では本音は出せない。

夫は他人に対してはいいのだが内づらがひどく悪い。外で我慢している分、内で当たるのではないかと思う。お酒を飲みながらの夕食に4-5時間かかる。食事中、ねちねちと

話が続き、くどい。いい加減にあしらっていると、延々とからんで来る。早く片づけて寝たいのだが寝るわけにいかない。それで更年期がひどかったのではないかと思っている。

ケース5. Y・Bさん(56歳・三男の妻)

第二種兼業農家(水稲40アール)、子供は男2人

同居家族は夫と子供2人

53歳で閉経。嫁いできてまず困ったのは、田んぼに出てトイレがないから生理のときは最悪。夫は三男なので田んぼを分けてもらい、家も別に構えたが、親たちは隠居所から目を光らせていた。とにかく、世間の目を気にしており、雨戸を朝早く開けること、人に逢ったら必ず頭を下げるようにと、こんこんと言われた。結婚当初しばらくの間同居していたときは、大家族で、ご飯炊きが大変だった。一度勤めに出たが、その後勤めを止めて家に入った。ところが、平成7年7月、急にめまいにおそわれ、吐いた。胃液に血が混じっており1ヶ月入院。うつ状態になった。診断はメヌエル氏病ということだった。2ヶ月後の9月に過呼吸症候群で救急車で運ばれた。生理が終わったのはその年の10月か11月頃。その後、声がかかり、現在の職場に。今は自分の力が活かせるのでやりがいがある毎日を送っている。職についている間はいいが、その後また家庭に入らなければならないのがこわい気がする。姑はそれなりによくしてくれるけれど、夫との関係が今ひとつうとうしい。他人にはいい人なのだけれど、酒を飲んだら必ずからむ。何とかしなければと思いながら、あたらずさわらずやりすごすようにしている。

ケース6. N・Nさん(49歳・農家の一人娘)

子供は男1人、女1人、同居家族は夫、2人の子供と自分の両親

サラリーマンと結婚し市内でマンション暮らしをしながら時々実家の農業を手伝いに帰っていた。実家は第一種専業農家。両親二人で160アールの田畑を耕作していたが、加齢と共に手広い農作業が困難になったので、夫はサラリーマンをやめ、農業に従事してくれている。娘時代両親の農作業の手伝いをしていたので、耕作機械の扱いにも習熟しており、両親が半ば引退した今も農業経営に困難を感じることはない。子供も成長して手はかからず、両親も今のところは特別な世話の必要はないが、これから先、介護が必要になったとき、農業と両立できるか不安である。田舎ではヘルパーの派遣もままならないから、そのときは夫が農業の中心となり、他人をやとって切り抜けるしかないと思っている。

閉経はまだだが、今、更年期の真っ只中にあると思う。ほてり、発汗があり、時々カッと熱くなる。家族揃って実家に引き上げた当初は、生活のリズムがととのわず焦ったりイライラすることもあったが最近も夫も農作業に慣れて来たので、気持ちの上でも楽になった。企業のリストラが進んでいる今、農業があつて夫にもよかったのではないかと思う。以前は出張が多くて家族が共に過ごす時間が少なかったが、実家に帰ってからは、ほとんどの時間共に過ごすので夫婦のコミュニケーションがよくとれるようになった。夫の顔色もサラリーマン時代よりよくなったような気がする。自分の両親との関係で、夫に多少気を使うけれど、そんなに負担にはならない。夫の両親との同居だととてもこんなわけにはいかないだろうと思う。市内に住んでいた頃の友人、特に子供の学校のPTA時代の友人達とは現在もひんぱんに交流があり、新鮮な野菜を届けて喜ばれている。

このままいけば、更年期もあまりひどくならず過ぎせるのではないかと思う。

ケース7 60代の農業女性(農家の一人息子と結婚)

子供は3人、同居家族は夫、長男

20歳の時望まれるまま結婚。婚家の人は働き者で舅は短気で近所の家より仕事の進

み具合が遅かったりすると家中の者にあたりちらし、夫も仕事以外のことは何もしない人なので、私はストレスはたまるし身体はへとへとに疲れて逃げ出したい気持になった。

夫は性欲が激しく疲れている私によくせまってきた。5年間に3人出産、2度中絶を余儀なくされた。3人目を出産した後2ヶ月程で畑仕事に出るようになったとき、腰から頭をつむじに向かって背骨を金槌で打たれるような痛みが走ることがたびたび起きるようになり、今でも疲労がたまると同じようなことが起きるが、しばらくじっとしていると後は何事もないので、特に治療はしていない。S36年に舅が脳梗塞で倒れ仕事ははかどらなくなり医療費もかかるので経済的にも楽ではなくなった。夫はイライラしセックスで自分の気持ちを解消していたようだが、せまられる私の方はたまったものではなく体重も落ちやせ細って胃下垂や胃潰瘍になり通院服薬が続いた。食事も喉を通らなくなったが山羊を飼育していたので山羊乳を飲んでかろうじて働いていた。

姑は字も読めないような人だったが子供達が大きくなる時一緒に字を習ったりしてとてもよい人で働き者。舅は半年ほどで普通の生活ができるようになったが、それから10年ほどたった頃今度は姑が脳梗塞で倒れ4ヶ月で他界した。口うるさい舅とどう暮らすのかと心配したが以前ほど大さわぎしなくなり、それから10年ほどで舅も他界した。子供達も成長し長男は家に入って一緒に農業をしている。

国の減反政策で我が家は水田をりんご園にした。「猿も食わない国光、紅玉」といわれ困った時もあったが「ふじ」りんごの産直販売のおかげで生活にもゆとりができた。

50歳になる頃このまま老いたくないと、夫の反対にもめげず茶道の稽古に出かけたり世間の行事につき合うようになった。そのせいか夫の浮気がひどくなったが、どうせ一度の人生だから人や家族に迷惑をかけないなら好きなことをしても構わないという気持になりお互いの生活に口をはさまないようにした。それぞれの得意の分野で精一杯の仕事をし、収入の分配をしてそれぞれが快適な（とまでは言えなくても）生活をエンジョイするようになった。以前は夫が一人じめして思うようにお金が使えなかったし、貯金もできずただ働くだけだったが息子が家に入った頃から息子と組んで夫に労賃の要求をしたりしてきた。今では胃腸薬を飲むこともなく更年期障害の影響も考えられないような暮らしになった（自助努力のお陰かな）。60歳を過ぎて体力も落ちたが喜んで下さる人々のためにこれからもりんご作りに精を出して働くつもり。息子の嫁には私の若いときのような苦勞はさせたくないと思心を決めている。

国民年金が先細りしないように介護保険で年金を取り上げないで欲しい。我々農民は国の政策に振り回されて作りたいものも思うように作れず作物は低価格で搾取される世の中は情けない。（雪深い信州の春を待つ農婦より）

Ⅲ. アンケート調査およびケース・スタディを通しての省察

農業女性の更年期の特徴としてあげられることが、一般女性の特徴と根本的に異なるとは一概に断じられない。都市化現象は農村地帯をも徐々に浸食しており、農村で生きる女性たちも、その意識やライフ・スタイルに影響を受けざるを得ないからである。とは言え年代が上がるにつれて農業女性と一般女性の差は開く傾向にある。今回の調査の年齢層のうち最も若い40代では、農業と一般の相違は小さいから、年代が下がるほどその人の暮らしを成り立たせている業態の影響よりも、時代を吹く風による影響の方が大きいと言えそうである。以上のような点を踏まえながらも、農業女性の更年期症状を左右するように見える要因を以下にまとめてみた。

1) 労働の軽重とやりがい感

労働が大きく、それが重労働であれば、当然、更年期の症状に影響すると考えられるが、今日の日本の農業は従前に比して著しく機械化がすすんでおり、また、今回の調査対象者は、調査に参加したときの状況から見て、農業女性の平均値よりも自由時間への裁量権は大きく、それだけ問題意識も高いとみてよいと思われる。そのような事情を考慮しながら敢えて言えることは、たとえ労働が重いものであっても、達成感、やりがい感が大きければ、更年期に関連する身体症状があったとしても、それは過大に感じられないという共通点を持っている、ということである。逆に、労働量はさほど大きくなくても、その労働の意味や目的が明確に内在化されず、「やらされている」という意識で行動した場合には、ちょっとした身体症状も強く感じられる傾向がみられる。

2) 家族関係における葛藤

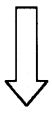
一般女性の場合、家族構成は単純化する傾向があり、必然的に夫との関係での葛藤の要素が大きくなるが、農業女性の場合は、夫との関係に加えて、いわゆる嫁対舅、姑の関係が家族間の葛藤を複雑にしている。長命化とともに嫁対舅、姑の関係も長期化する。それに加えて、それまで労働力であった親世代が介護を必要とする状態になったときは、家族の可動労働力の総体が著しく小さくなるのみならず、介護のための労働力としての「嫁」に対する期待は農村では今だに大きいから、身体の変調期にある女性にとっての負担は特に過重になる。農村では、介護のためにヘルパーなどの他人を入れるということに対しては今だに抵抗が大きく、この点に関しての意識や行動様式を変革する方策が早急にたてられるべきである。

3) 地域の人間関係

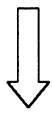
家族間での葛藤からくるストレスが強い場合、その緊張を解消し、心をリフレッシュさせるものとして、利害関係のない同世代の友人とおしゃべりがきわめて有効であることを多くの人があげている。農業女性の場合、気心の知れた友人関係は、PTA、JAなどの組織で作られることが多いようである。古い慣習に縛られずに思ったことを言い合えるだけでなく、スポーツや生涯学習の場、趣味の分野などで共に行動する仲間がいることが大きな支えになっており、世代が下がるごとにその傾向は大きくなっている。

4) 「自分の世界」を持っている

この項は3)と関連するものであるが、農業以外の世界を持ち、それゆえに「農業」を客観化できる視点を持っている場合は、何か問題があってもそれを切り抜ける手段を見つけやすく、また実際に問題をクリアーすることができている。非農家に育ち、農業青年との結婚によって、自覚的に農業にたずさわっている女性の中にこのタイプが見受けられることが多い。さらに言えば農業の中に「自分の世界」を見出すことのできた人は最強の力を発揮している。今回の調査には含まれなかったが、たとえば、果物や花きなどの付加価値の高い農業経営を自ら行ったり、まかされたりしているケースを見ると、主体性と経済的自立が達成される限り、農業は女性の身体的、精神的健康にとってきわめて適した働きであると言ってよいと思われる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

平成9年度の更年期研究では、一般女性の調査に加えて、農業女性の更年期がどのような状況にあるかを見る試みがなされた。「農業女性の更年期実態調査その1」では、一般女性と対比させながら農業女性の特徴的な傾向をさぐった。最初に、アンケート調査を通しての報告を行い、次いで農業女性へのインタビューによるケース・スタディを報告する。なお、「その1」は次に続く「農業女性の更年期実態調査そのII」での、農業女性に対する別建てのアンケートに基づいた専門的な調査分析のための前提として構成されたものである。